道路拡幅及び水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

徳用チャヤ遺跡

2019

石川県野々市市教育委員会

例　　言

1 本書は、徳用チャヤ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2 遺跡の所在地は、石川県野々市市徳用二丁目地内である。
3 調査原因は、宅地分譲に伴う道路拡幅及び水路整備である。
4 調査は原因者である株式会社大地及び野々市市土木部建設課の委託を受けて野々市市教育委員会が実施した。
5 調査のうち道路拡幅に伴うものに係る費用は株式会社大地が負担した。
6 現地調査の期間・面積・担当者は以下のとおりである。
　・調査期間 : 平成 30 年 7 月 30 日 ~ 8 月 10 日、調査面積 : 126㎡
　・調査担当者 : 腰地孝大（野々市市教育委員会文化課）
7 出土遺物の整理及び報告書の刊行は平成 30 年度に実施し、腰地が担当した。
8 本書についての凡例は以下のとおりである。
　⑴ 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
　⑵ 水平基準は海抜高であり、T.P.（東京湾平均海面標高）による。
　⑶ 出土遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真に対応する。
　⑷ 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
　⑸ 土層図・遺物観察表の色彩注記は、『新版標準土色帖』に拠った。
　⑹ 遺構名称の略号は以下のとおりである。
　　竪穴状遺構 : SI　溝 : SD　土坑 : SK
9 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。

第 1 章 調査の経緯と経過

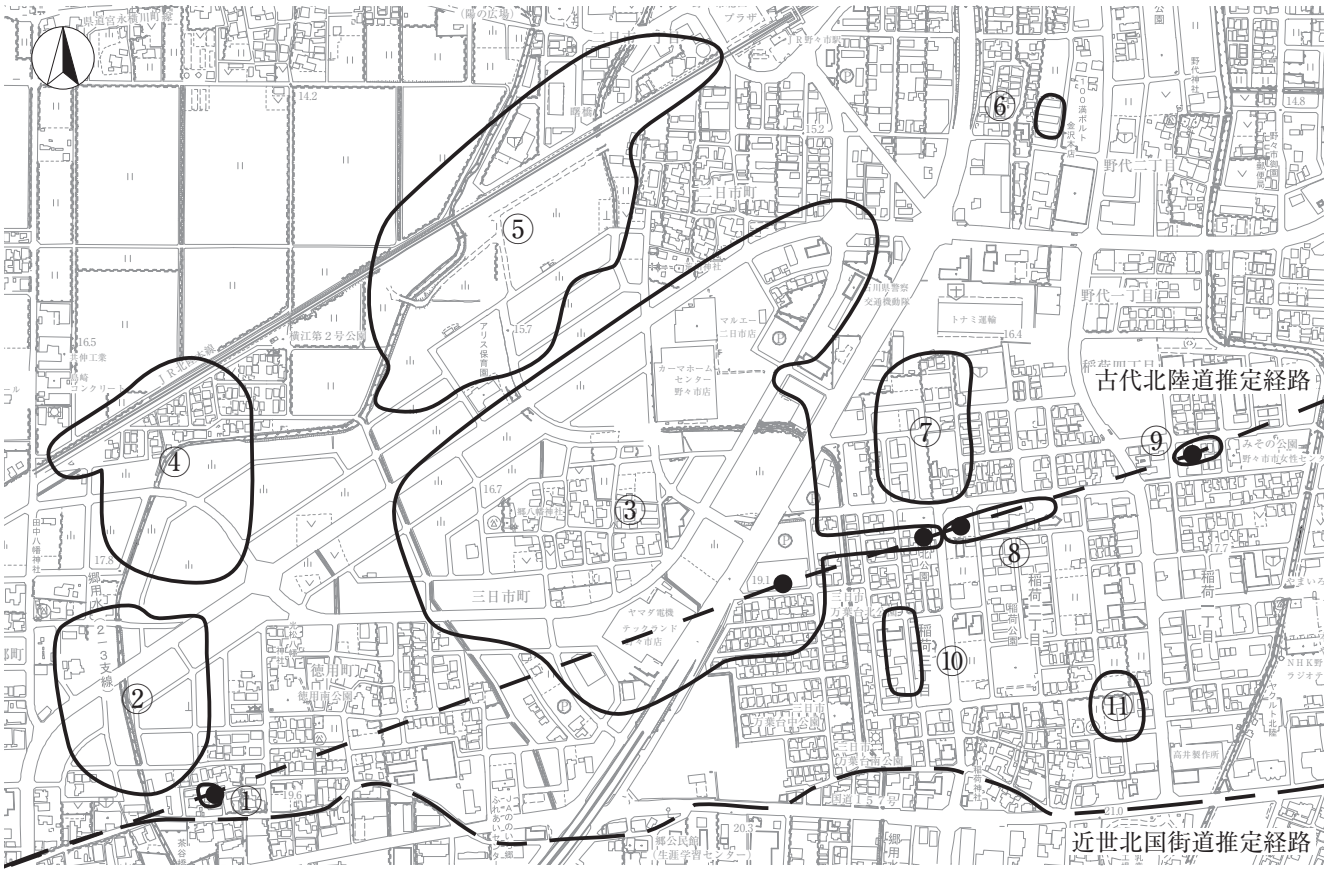
徳用チャヤ遺跡は、平成 30 年度に分布調査をした際に発見された遺跡である。遺跡の東側に位置する三日市 A 遺跡で古代北陸道の遺構が発見されていることから、その延長線上にある本遺跡においても同様の遺構が発見されることが予想されたため、宅地分譲に先立ち分布調査を実施した。その結果、溝状の遺構を検出し、遺跡が発見された。石川県教育委員会文化財課及び事業者と協議を行い、宅地分譲に伴う道路の拡幅工事範囲について発掘調査を行うことで事業者と合意した。また当該地において野々市市建設課が事業者となり水路を整備する部分についても遺跡を破壊すると判断されたため同時に調査を実施することとなった。

平成 30 年教文 193 号及び 211 号で土木工事等のための発掘届を県に進達し、県より発掘調査を行う旨の通知がなされた。直ちに事業者と契約を行い、7 月 30 日に現地調査を開始した。現地調査は重機により造成土及び遺物包含層を掘削したのち、人力による遺構検出及び遺構掘削作業を行った。道路の拡幅部分については、現道を生かしつつ拡幅部分の調査を行う必要があったため調査範囲は限られたもの、溝 2 条と竪穴状遺構 2 基を検出した。水路についてはすでに素掘りの用水として利用されており、断水したのちに重機により表土を掘削した。非常にグライ化が進み遺構検出は困難であったが、地山と遺構覆土の色調がわずかに異なっていたことから溝 4 条を検出した。これらの遺構について、図化、写真撮影及び測量を行った後に、埋戻しを行った。整理作業については調査終了後速やかに図面及び遺物の整理を開始し、平成 31 年 3 月に報告書を刊行した。

第 2 章 遺跡の位置と環境

野々市市は金沢市と白山市に境界を接する、面積 13㎢ほどの県内で最も狭い市町である。県南部を西流する手取川によって形成された手取川扇状地の扇央部から扇端部にかけて位置しており、比較的平坦な地勢ながら南から北へ緩やかに傾斜しており、市内の最も高い地点で標高 50m、低い地点で標高 10m を測る。

第 1 図　野々市市位置図



第 2 図　周辺の遺跡

徳用チャヤ遺跡は古代から近世にかけての遺跡であり、上記のとおり古代北陸道の推定経路上に位置している。そのためここでは周辺の遺跡について述べたのちに、古代北陸道の跡を確認した遺跡について取り上げて述べることとする。

徳用チャヤ遺跡の北西に隣接している徳用クヤダ遺跡は縄文時代後晩期から中世後半にかけて断続的に営まれた複合集落遺跡である。特に中世後半には方形の堀に囲まれた屋敷地がみつかっており、有力者層の居住地であったと考えられる。また徳用チャヤ遺跡の南側では近世の北国街道が東西に走っており、古代から近世にかけての交通経路であったことが伺える。

古代北陸道の遺構が発掘調査によって検出された遺跡としては、野々市市内では三日市 A 遺跡（第 5・10 次ほか）、三日市ヒガシタンボ遺跡、稲荷シチタン遺跡があり、他に稲荷ウラドマリ遺跡の確認調査の際に発見されている。特に三日市 A 遺跡では 2 条の並行する溝が 150m にわたってみつかっており、道路幅は側溝の芯々距離で約 8m を測る。

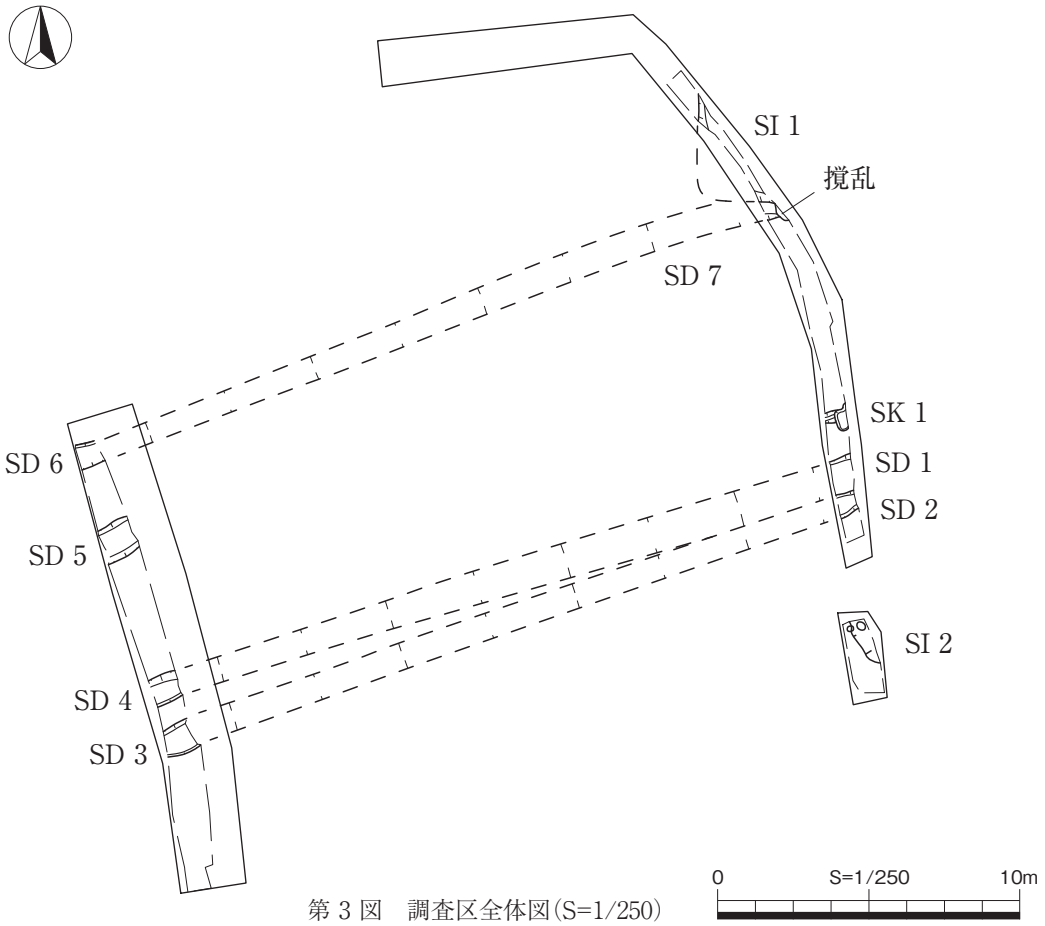
No	遺　跡　名	時　代
①	徳用チャヤ遺跡	古代・中世
②	徳用クヤダ遺跡	弥生・古代・中世
③	三日市 A 遺跡	縄文・弥生・古代・中世
④	郷クボタ遺跡	弥生・古代・中世
⑤	二日市イシバチ遺跡	縄文～古墳
⑥	野代オバナヤシキ遺跡	
⑦	三日市ヒガシタンボ遺跡	弥生・古代・中世・近世
⑧	稲荷シチタン遺跡	古代
⑨	稲荷ウラドマリ遺跡	古代
⑩	稲荷シマ遺跡	
⑪	稲荷マタベエタ遺跡	

第 3 章 遺構と遺物

検出した遺構は、竪穴状遺構 2 基、溝 7 条、土坑 1 基である。

竪穴状遺構 SI1

（検出）東側調査区北東端で検出した。トレンチの屈曲部分に当たるため調査範囲が限られ、さらに南側は SD7 や現代の攪乱などと重なり合うためプランの確定はやや困難であった。（覆土）硬化した床面は検出されなかった。（規模・



第 3 図　調査区全体図(S=1/250)

形状）検出した部分は遺構の南東隅のみである。規模は推定で一辺 3.5m 以上を測る。深さは深いところで検出面から 70cm である。底部は緩やかに落ち窪み、底部はやや凹凸が見られる。（遺物）青磁椀 1 点及び石鉢 1 点が出土している。（時期・性格）徳用クヤダ遺跡でみつかっている竪穴状遺構とほぼ同規模であり、遺物の時期から中世後半の竪穴状遺構と考えられる。

SI2

（検出）東側調査区の南側で検出した。地山はしまりのよい黄褐色土で、遺構覆土との違いが明瞭であったため重機掘削の時点で遺構を認識した。（覆土）ブロック土を含む覆土であり、人為的に埋め戻されたと考えられる。（規模）検出したのは南西隅の一辺 1.8m 程の範囲のみである。深さは深いところで約 20cm である。（遺物）珠洲焼の甕口縁部 1 点が出土している。（時期・性格）SI1 と同様の、中世後半頃の竪穴状遺構とみられる。

溝 SD1

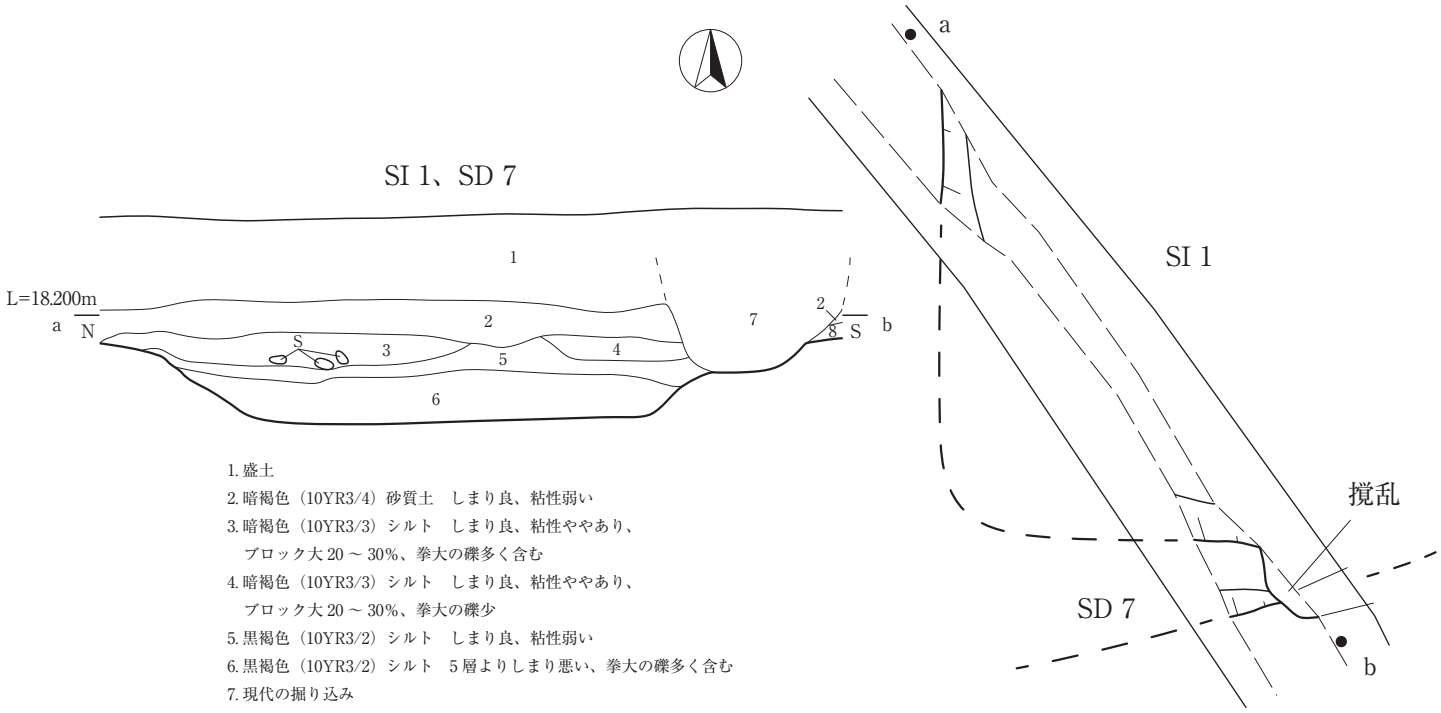
（検出）東側調査区で検出した。SD2 と重なり合っており、平面精査の結果 SD1 が切られていると判断した。（覆土）ブロック土を多く含む暗褐色土で、人為的に埋め戻されたと考えられる。（規模）幅 1m 以上の溝である。西側調査区で検出した SD4 と一連のものと考えられる。（遺物）なし（時期・性格）時期を推定する遺物が出土していないため時期は不明である。性格については、道路遺構の側溝が可能性として考えられる。

SD2

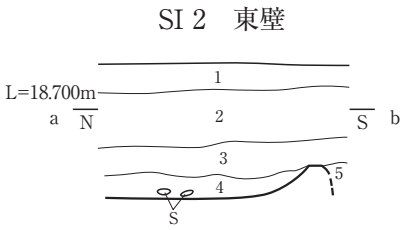
（検出）東側調査区で検出した。平面精査の結果 SD1 を切ると判断した。（覆土）ブロック土を多く含む暗褐色土である。（規模）幅約 80cm の溝である。西側調査区で検出した SD3 と一連のものと考えられる。（遺物）なし（時期・性格）時期を推定する遺物が出土していないため時期は不明である。性格については、道路遺構の側溝が可能性として考えられる。

SD3 ～ SD6

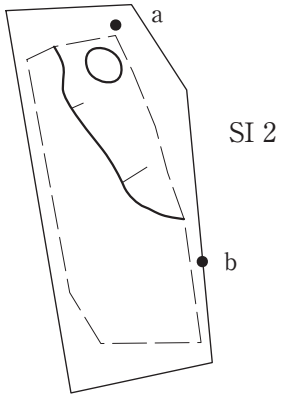
（検出）SD3 から SD6 は西側調査区で検出した。いずれも調査前から検出面のわずか上面を素掘りの水路がもうけられていたため、地山と包含層がいずれも強く変色し、わずかに色調の差があったものの検出は困難であった。そのためわずかな色調の差がみられる部分を中心に掘削し、断面で遺構の確認を行った。（覆土）非常に粘度の高いグライ化した覆土である。（規模）幅約 80cm から 1m ほどの溝で判断した。SD6 は西側調査区で検出した SD7 と一連のものと考え

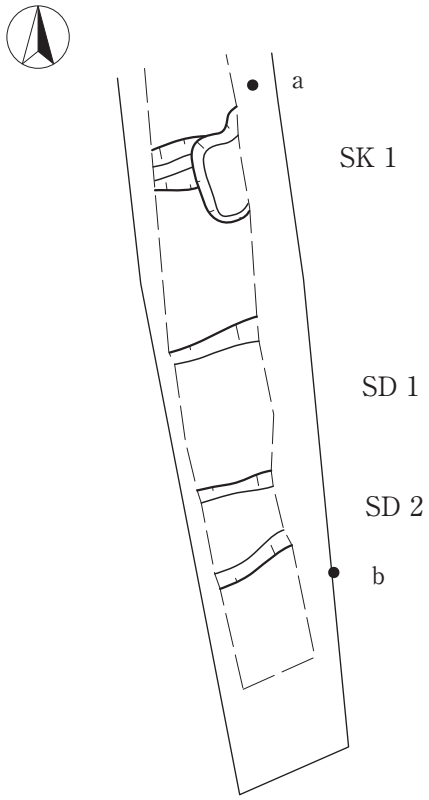


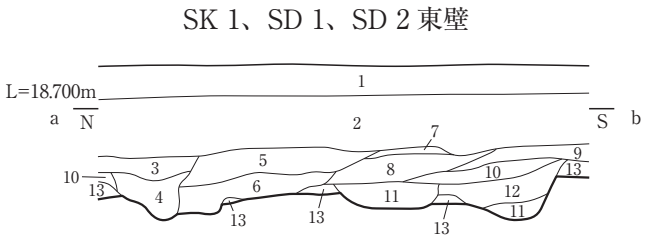
1. 盛土
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土　しまり良、粘性弱い
3. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり良、粘性ややあり、
   ブロック大 20 ～ 30%、拳大の礫多く含む
4. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり良、粘性ややあり、
   ブロック大 20 ～ 30%、拳大の礫少
5. 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり良、粘性弱い
6. 黒褐色（10YR3/2）シルト　5 層よりしまり悪い、拳大の礫多く含む
7. 現代の掘り込み
8. 地山



1. 盛土
2. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土　しまり強い、粘性弱い、小礫混じる
   （盛土か）
3. 暗褐色（10YR3/3）粘質土
   しまりやや弱い、粘性弱め、砂質シルト、グライ化した粘質土が混じる
4. 黒褐色（10YR2/2）粘質土　しまりやや弱い、粘性ややあり、
   地山土質ブロックを 5%含む（SK 2 の覆土、人為的に埋められたか）
5. 黒褐色（10YR2/2）粘質土　4 層と同じ、ブロックやや少ない







1. 盛土
2. 盛土
3. 暗褐色（10YR3/3）砂質シルト　小礫混じる、粘性やや弱い、しまり良（SK 1）
4. 黒褐色（10YR2/3）シルト　地山土質ブロック小 3%、しまり良、粘性あり（SK 1）
5. 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり良、粘性あり（SK 1）
6. 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり良、粘性あり、大ブロック 20%（SK 1）
7. 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり良、粘あり、小ブロック 3%
8. 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり良、粘強
9. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり良、粘強
10. 暗褐色（10YR3/3）砂質シルト　しまり良、粘強
11. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり良、粘強、大ブロック 20%（SD 2）
12. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり良、粘強、小ブロック 5%、混入物多い（SD 2）
13. 地山　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土

第 4 図　個別遺構図(S=1/60)

0　S=1/60　2m

られる。（遺物）SD5 から珠洲焼の甕 1 点が出土しているほか、近世の陶磁器が数点出土しているが、溝覆土の上層に伴うものである。（時期・性格）。性格については、道路遺構の側溝が可能性として考えられる。確実に溝に伴う遺物にかけるため時期の絞り込みは困難である。

SD7

（検出）東側調査区で検出した。平面精査の結果 SI1 に切られると判断した。また現代の攪乱にも切られており、溝として確認できる範囲はごくわずかであった。（覆土）壁面の崩落により、覆土の記録を取ることができなかった。（規模）幅 60cm 以上の溝である。西側調査区で検出した SD7 と一連のものと考えられる。（遺物）なし。（時期・性格）時期を推定する遺物が出土していないため時期は不明である。性格については、道路遺構の側溝が可能性として考えられる。

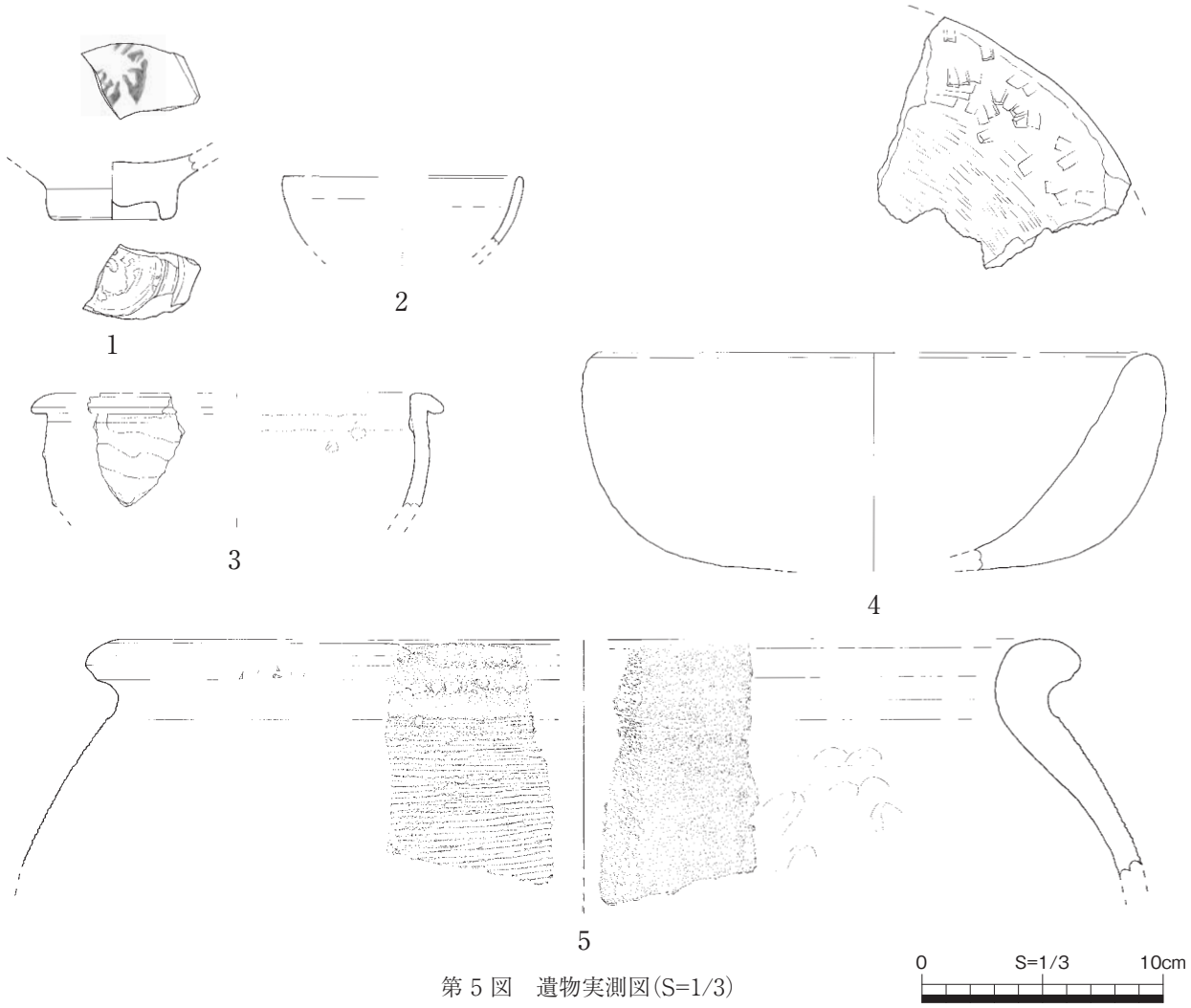
土坑 SK1

（検出）東側調査区で検出した。平面プランとして確認できたのは南北 70cm 程であったが、壁面の観察の結果、上層から掘り込まれ SD1 及び SD2 を切るものと判断した。（覆土）小礫やブロック土を多く含む覆土である。（規模）壁面で観察できた上端では南北幅約 2.2m 程となる。（遺物）なし。（時期・性格）時期を推定する遺物が出土していないため時期は不明である。土坑として記録したが、規模が大きく、竪穴状遺構の可能性が考えられる。

第 4 章 総括

本遺跡は古代北陸道の推定経路上に位置しており、調査前の想定通りの位置で溝を検出した。ただし硬化した路盤面などは検出することができず、古代北陸道として評価を下すためには、本遺跡よりさらに西側で同様の遺構が発見されることにより、再評価される必要があるものと考えられる。

また竪穴状遺構については、徳用クヤダ遺跡で多数発見されており、これに続く一連の中世後半の集落の縁辺部と評価することができる。



第 5 図　遺物実測図（S=1/3）

第 1 表 土器観察表

報告番号	遺構	器種	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	調整(外) 調整(内)	色調(外) 色調(内)	残存率	備考	実測番号
1	SI 1	青磁			50	ロクロナデ	オリーブ灰	小片	底部中央に印花文	1
		有台椀				ロクロナデ	オリーブ灰			
2	SD 5	近世陶器	(98)				浅黄	口縁部 1/12		5
		碗					にぶい黄、浅黄			
3	SD 5	近世陶器	(150)				にぶい黄橙、にぶい黄	口縁部 1/18		4
		鉢					にぶい黄橙			
5	SD 5	珠洲焼	(390)			ロクロナデ、ケズリ、タタキ	灰白	口縁部 1/18		3
		甕				ロクロナデ	灰			

第 2 表 石製品観察表

報告番号	遺構	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考	実測番号
4	SI 1	石鉢	口径 230	器高 (90)		458	軽石凝灰岩	残存率 約1/6	2
								内面一部に煤	

SD1・2 完掘（南東から）

SD3～6 完掘（北東から）

SI1 完掘（北から）

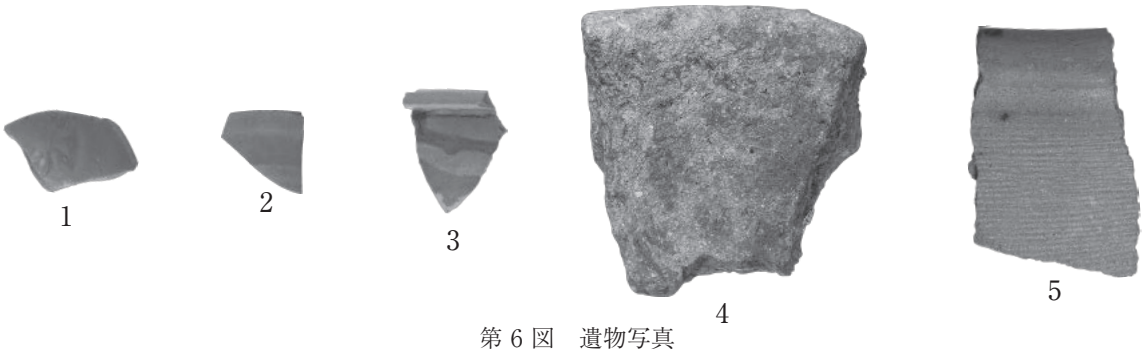
SI1 断面（南西から）

SI2 検出状況（南から）

SI2 断面（南西から）

SI2 完掘（南から）

SK1 完掘（西から）



第 6 図　遺物写真

報　告　書　抄　録

ふりがな	とくもとちゃやいせき
書名	徳用チャヤ遺跡
編著者名	腰地　孝大
編集機関	野々市市教育委員会
所在地	〒921－8510　石川県野々市市三納一丁目 1 番地　　Tel：076－227－6122
発行機関	野々市市教育委員会
発行年月日	西暦　2019 年 3 月 25 日

所収遺跡名（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
徳用チャヤ遺跡（トクモトチャヤイセキ）	石川県（イシカワケン）野々市市（ノノイチシ）徳用二丁目（トクモトニチョウメ）	172120	1208400	36°31′57″	136°35′23″	2018年7月30日～8月10日	126	記録保存調査
	種　別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
	集落跡 道路遺構	古代・中世		竪穴状遺構2基 溝7条　土坑1基		中近世陶磁器 石鉢		

要　約	古代北陸道の推定経路上に位置し、道路側溝と考えられる溝を検出した。また中世の竪穴状遺構を2基検出し、北西に位置する徳用クヤダ遺跡から連なる、中世後半頃の集落跡の一端と考えられる。

2019 年 3 月 25 日　発行

徳用チャヤ遺跡

著作権所有　石川県野々市市三納一丁目 1 番地

発　行　者　野々市市教育委員会

印　刷　者　石川県野々市市矢作三丁目 18
高桑美術印刷株式会社